

外部評価結果の公表シート

整理番号	事業名
17	児童発達支援事業費

所管部局
保健福祉部 療育・自立支援センター

※()の数字は、委員数

所管部局の評価			外部評価	
評価項目	評価内容	評価内容の説明	評価の妥当性	「妥当でない」と評価した理由
必要性	事業の市民ニーズ	高まっている	妥当(4) 妥当でない(0)	
	市の関与の妥当性	社会情勢等から関与が妥当	妥当(4) 妥当でない(0)	
		身近な地域の障がい児支援の事業所として、より専門性が必要な児童への支援が求められている。		
成果・有効性	成果の達成状況	達成している	妥当(0) 妥当でない(4)	○定量的成果指標を提示することで将来の需要予測やニーズ把握が可能になる。 ○単純に利用者が増えることは望ましいことではないが、療育に対してマイナスイメージを持つために利用しない人に啓発で理解を深めてもらうなど、定量的な指標を設けることは難しくても、何を指して達成と考えるかを整理しておく必要がある。
	事業目的実現のための手段	現手段が最適	妥当(4) 妥当でない(0)	
		母子通園による児童発達支援を提供しており、診療所とも連携した事業運営により効果的なサービスの提供が行われている。		
コスト・負担	コストの節減度	節減できている	妥当(4) 妥当でない(0)	
	将来コスト増減見込み	現在より増加する可能性がある	妥当(4) 妥当でない(0)	
	受益者負担の適正度	評価対象外		
執行方法	外部委託の可能性	しづらい性質の事業	妥当(4) 妥当でない(0)	○民間事業者による運営など、より良い実施方法の追求を続けてほしい。
	実施方法の効率性	図られている(今後の改善は難しい)	妥当(3) 妥当でない(1)	
		専門性が求められる児童への発達支援は、保育士のほか診療所や機能訓練スタッフなど他職種の連携が必要であり委託しづらい。		

所管部局による今後の改善策	
基本方針	現行どおり



今後の改善策について	意見・提言
現行どおり (3) 改善 (1) 当面現状維持 () 廃止 ()	○この施設がどれほど素晴らしくても、すべての個性を受け入れることは難しく、合う合わないはあるもの。その子に合う環境を模索しなければならないことを考慮すると、民間との連携も含めて、これから改善をしていくことが出てくるはずである。
外部評価委員会としての提言	
現行どおり	